

ORIENTATION • LECTURE

生成AI入門 座学編

失敗OK、まず触る3時間の前半

第1回の前半60分。本日の進め方を共有したあと、生成AIが何者で、どこで間違い、何を入れてはいけないのかを、公式の数字と実際に起きた事例で押さえます。

📅 2026年7月14日(火) ⌚ 14:00 - 17:00 💻 対面・法研システムズ様 👥 全社員 20～25名

ようこそ。本日3時間のゴール

生成AIに一度も触れたことがない方も対象です。難しいことは扱いません。本日のゴールは、自分の仕事でAIが使えたと言える小さな成功体験を1つ持ち帰ることです。「失敗しても大丈夫、まず触ってみる」を合言葉に進めます。

01 本日の前提

対象

全社員 20～25名

職種・経験年数は問いません。前半は座学、後半は手を動かしていただきます。

使うもの

Gemini とスプレッドシート

業務PCのブラウザで [Gemini](#) と Google スプレッドシートだけを使います。開けない方は講師がフォローします。

ゴール

成功体験を1つ

自分の業務でAIを試し、明日も使ってみたいと思える手応えを1つ持ち帰っていただきます。

02 今日のお願ひ3点

- 👍 たくさん触ってください。講師の話聞くより、ご自身の手で試した方が学べます。
- 👍 変な答えが返ってきたを歓迎してください。AIが間違える瞬間こそ、リスクを肌で理解する教材になります。
- 👍 遠慮なく質問してください。一人の疑問は全員の疑問です。沈黙より初歩的な質問を歓迎します。

事前準備

業務PCを起動し、ブラウザで gemini.google.com にアクセスして、ご自身の Google Workspace アカウントでログインできる状態にしておいてください。使えるかどうかは情シスご担当の判断によりますので、開けない方はその場で講師がフォローします。

03 全員参加を見える化するクラス共有シート

本日は受講者の皆さん全員で1枚のクラス共有シート（Google スプレッドシート）を使います。各演習の結果や気づきを、ご自身の名前の行に1行ずつ書き込んでいただきます。手を動かした分だけシートが埋まっていきます。

URL を受け取る

→

自分の名前の行を見つける

→

結果と進み具合を記入

進み具合は「やってみた／つまづき中／できた」の3つから選んで記入します。講師の指示があったら、当日配布される共有シートのURLを開いてください。

なぜ共有シートを使うのか

他の方の行が埋まっていく様子が見えると、自分も書いてみようという気持ちが自然に働きます。講師と運営はこのシートを見るだけで全員の進み具合を把握でき、つまづいている方にすぐ声をかけられます。正解を競うものではありません。空欄を自分の言葉で埋めること自体が、今日の参加です。

SOURCES

[Gemini \(gemini.google.com\)](https://gemini.google.com)

[Gemini for Google Workspace 公式
\(Workspace Updates 2025-01\)](#)

[Gemini Workspace Admin help](#)

[Gemini リリースノート（最新モデル）](#)

生成AIの基本理解とリスク

この章では、生成AIが何者で、何を得意とし、どこで間違えるのかを45分で押さえます。座学中心ですが、画面上で短いデモを挟みます。生成AIは確率的に次の言葉を選ぶ仕組みで、これが便利さと危うさの両方を生みます。

01 2026年、いまどこにいるのか

生成AIはこれから来る技術ではなく、すでに業務で使われている技術になりました。日本企業の業務利用率は55.2%、世界各国とは依然差があるものの、社内活用は加速しています。

55.2%

日本企業の生成AI業務利用率
総務省『令和7年版 情報通信
白書』(2025年7月)

26.7%

日本の個人 生成AI 利用率（中
国81.2%／米国68.8%）
同上 情報通信白書

87%

日本企業で生成AIを活用中＋
推進中と回答（前回76%から
上昇）
PwC『生成AIに関する実態調
査 2026春』

使うのは **Gemini**（Gemini for Workspace、業務契約版）です。Google I/O 2026 で Gemini 3.5 Flash が発表され、2026年6月には 3.5 Pro が提供されています。文章の要約や作成、翻訳、表データの整理、画像の読み込みと説明まで、ブラウザ1つで扱えます。

伸びる技術と縮む技術

定型文の下書き、議事録の要約、長文の言い換えといった「ゼロから1を作る手前の作業」はAIが急速に肩代わりしています。一方で、事実が正しいかの最終判断、相手の状況をくんだ意思決定、責任を伴う承認は人間の仕事として残ります。AIに任せる部分と自分が担う部分を分けて考えると、使いどころが見えてきます。

02 生成AIと検索エンジンは別物

同じブラウザに文字を打つので混同しがちですが、両者は目的の質が違います。検索エンジンは正解の在りかを示すツールで、生成AIはあなたの状況に合わせて回答を組み立てる相手です。

観点	検索エンジン（例：Google）	生成AI（例：Gemini）
得意なこと	事実・URL・公開情報を素早く引き当てる	状況を整理し、文章・要約・案を組み立てる
1セッション平均滞在	約5分	約14分
使い方の前提	キーワードを打って結果を選ぶ	文脈を伝えて対話する
典型的な失敗	検索結果が古い・偏る	もっともらしい嘘を返す（後述）

ライブデモ：聞き方で答えが変わる

「来週の社内勉強会のアジェンダを1行で出して」と、「あなたは保険業界の研修担当です。来週、新人5名向けに60分でガイドラインの読み方を教えます。アジェンダを5ブロックに分け、各ブロックの所要分も付けてください」を、同じ Gemini に投げて回答品質の違いを画面でご覧いただきます。1回で終わらず、3回4回と聞き返す前提が大切です。

03 リスク1：ハルシネーション（もっともらしい嘘）

生成AIは確率的に次の言葉を選ぶ仕組みのため、自信満々に存在しない事実を語ることがあります。なぜ起きるのは単純で、AIは正しさを確かめているのではなく、もっともらしく続く言葉を選んでいるだけだからです。最近の象徴的な事例を3件ご紹介します。

2023年6月・米国ニューヨーク

弁護士が架空判例を裁判書面に引用

航空会社相手の訴訟で、原告弁護士が ChatGPT に判例検索させ、6件の存在しない判決を引用。原典を求められて発覚し、罰金5,000ドルと懲戒対象になりました（Mata v. Avianca）。

2024年2月・カナダ

チャットボットの嘘の案内で航空会社が敗訴

遺族割引の払い戻し可否について、サイト上のチャットボットが誤回答。BC州の民事解決トリビュナルはチャットボットも会社の表示として、812カナダドルの賠償を命じました。

2025年10月・豪州

政府納品レポートに架空引用が約20件

デロイト豪州が29万豪ドルで納品した福祉システム監査の報告に、存在しない論文や架空の裁判官引用が混入。研究者が発見し、契約最終支払分を返金する事態になりました。

この章の鉄則

AIの出力には、必ず人間の目で出典確認を入れてください。とくに数字・固有名詞・法令条文・判例は、原典を確認せずに文書化しないでください。便利だからで省略すると、デロイトと同じことが起きます。

04 リスク2：情報漏洩とシャドーAI

2つ目のリスクは、AIへの入力が入外に出してしまうこと、そして会社が把握していないAI利用（シャドーAI）が広がっていることです。

2023年3～4月・韓国 サムスン電子

解禁20日で3件の機密漏洩

半導体設備測定DBのソースコード、歩留まり管理プログラムのコード、社内会議の録音書き起こしが ChatGPT に送信された事案。同社は入力を制限したのち、5月に全面禁止へ進みました。

2025年2月・世界

生成AIの認証情報 約2,000万件が流出

AIサービス側が侵害されたのではなく、利用者側端末のマルウェアによる窃取と判明。AIそのものより、アクセスする端末側のセキュリティが弱点になることを示しました。

会社が把握していないAI利用は、日本国内でも一定の割合で起きています。

約5人に1人

生成AI業務利用者のうちシャドーAIに該当
エルテス調査 2026年1月
(n=300)

45.0%

社内AI規程がないと回答
同上 エルテス調査

56%

従業員が承認外AIツールを業務利用（世界）
IDC グローバル調査 2025年

05 リスク3：やっていい・ダメの線引き

ダメなことが何かわからないので結局何もしない、という現場が一定数あります。判断基準を明確にすると、リスクを避けながら活用できます。

AIに入れない

- ☑ お客様氏名・契約番号・健診結果などの個人情報
- ☑ 社内の未公開資料、稟議書、人事情報
- ☑ 取引先との非公開やり取り、見積金額
- ☑ ID／パスワード／APIキー

入れて問題ない

- ☑ 公開済みのプレスリリース・ニュース要約
- ☑ 個人を特定できない形に加工した業務文章
- ☑ 架空のダミーデータを使った業務シミュレーション
- ☑ 一般的な業界用語の説明依頼

Gemini for Workspace の安心材料

本研修で扱う Gemini for Workspace（業務契約版）は、入力データがモデル学習に使われない設計です。プロンプト・応答・添付コンテンツは Google 側でも人間レビューされません。とはいえ、上記の入れない項目は契約の有無に関わらず社内ルールとして守る運用が現実的です。

06 押さえる原則5つ

- ☑ AIは対話相手であって検索ではない。1回で諦めず、3回4回と聞き返す前提で使う。
- ☑ 出力は必ず人間が確認する。とくに数字・固有名詞・法的記述は原典の照合を省略しない。
- ☑ 個人情報・顧客情報・契約情報は入れない。判断に迷ったら入れない、が原則。
- ☑ 会社が認めたツールを使う。無料の野良AIを業務で使うと、シャドーAIとして情シス側に把握されない。
- ☑ 困ったら情シス・上長に相談する。これAIに聞いていいですかと言える組織が、AI活用が伸びる組織。

正しく使えば味方になる

リスクを並べましたが、入れないものを入れず、出力を自分で確かめる。この2つを守れば、生成AIは日々の作業を確実に軽くしてくれます。この後のハンズオンで、実際にその手応えを作っていきます。

SOURCES

総務省『令和7年版 情報通信白書』企業AI利用

同 情報通信白書 個人AI利用

PwC『生成AIに関する実態調査 2026春』

First Page Sage『Google vs ChatGPT Market Share 2026』

Mata v. Avianca, Inc. (架空判例事件・Wikipedia)

CBS News: Air Canada chatbot 訴訟

Fortune: Deloitte 豪州 AIハルシネーション返金

Gigazine: Samsung ChatGPT 機密漏洩

丸紅 I-DIGIO: 生成AI情報漏洩 5事例

エルテス シャドーAI 実態調査 (2026年1月)

Generative AI in Google Workspace Privacy Hub

経産省・総務省『AI事業者ガイドライン 第1.2版』(2026年3月31日)



制作 : Givery 株式会社／法研システムズ様 第1回 生成AI入門